

読書山梨

yamanashi Prefectural Library

vol.122

発行日
平成19年2月1日



本と出会う瞬間

- ・本のざわめきに耳を澄ます～書庫開放～
- ・山梨についてのことなら、
まず図書館におたずねください
- ・平成18年度第4回資料紹介展示
- ・ボランティア活動から
- ・最近出会った本
- ・メールでこんにちは
- ・図書館日記
- ・お知らせ

本のざわめきに耳を澄ます ～書庫開放～

当館が所蔵している図書・雑誌・新聞・視聴覚資料などのうち、皆さんに直接手にとって見ていただけるものは約10万点。その他の約40万点の資料は、書庫に収蔵されています。書庫には一般の古い資料や保存の必要性が高い山梨県関係資料などのほか、昭和初期に甲府の映画館・中央館で名弁士として活躍した梅村紫声氏が、生涯をかけて集めた映画に関する資料「梅村紫声文庫」や、江戸時代、幕府が甲府城内に創設した甲府学問所を前身とする「^{きてんかん}徽典館」と根津嘉一郎氏の蔵書を中心とした国書・漢籍などの、貴重書コレクションもあります。

普段は入ることができない書庫へ自由に入り、こういった資料に直接触れていただく機会となるのが、恒例の「書庫開放」です。今年は県民の日（11月20日）にあわせて開催し、多くの方にご来館いただきました。整然と、しかもぎっしりと本が並ぶ様に、初めての方は圧倒されたようです。本から聞こえる声に耳を澄まし、新たな出会いや再会を果たした方もいらっしやったようです。

（企画振興担当 大窪広美）



山梨についてのことなら、まず図書館におたずねください ～集めて、使って、残していくこと～



郷土資料室の様子

当館の4階にある、郷土資料室をご存じですか？山梨県に関するあらゆる資料……図書をはじめ新聞や雑誌、地図、ポスター、パンフレットなども閲覧することができます。話題の武田信玄や山本勘助、富士山、桃・葡萄、地場産業について調べすることもできますし、観光ガイドや郷土料理のレシピ集、県の機関の概要や行政の様々な基本計画、土地の価格表、住宅地図、美術館や博物館の図録、同窓会の記念誌、山梨県出身の方が著した小説・地域史・俳句集などもあります。

このような山梨県に関する資料コレクションを持つ当館には、山梨県のことを調べたい、資料を見たいというお問い合わせが県内外から寄せられます。その際には、郷土資料室のカウンター職員が、直接窓口でお応えするほかに、電話や手紙、メールなどでもお伺いしています。調査には主に郷土資料室の資料を活用します。地域の出版物には山梨ならではの詳細な情報が盛り込まれていて、調べもの際には大いに助けられています。「川中島の合戦を描いた錦絵が見たいのですが」「山本勘助の『兵法秘伝書』という資料はありますか？」などなど、質問の中には武田氏に関するものも数多く含まれます。NHK大河ドラマ「風林火山」の影響でしょうか、特に最近増えているように感じられ、関心の高さが伺えます。

郷土資料室の資料は、閲覧室の書架に並べ皆様に自由に手に取ってみていただけるもののほかに、書庫に「保存用」として保管されているものがあります。当館に来館していただくことで常に資料を見ることができるよう、また未来の利用者にその資料の持つ情報を確実に伝えていくために、地域の資料を入手したときにはまず「保存用」として整理します。保存用資料には出版から百年近くを経たもの、非常に限られた部数のみ発行されたものなども見られます。保存用資料の閲覧のご希望があったときには、職員が書庫からお持ちしてご提供しています。

当館では、より充実した山梨県関係コレクションを皆様にご提供するために、発行の過去、現在を問わず地域に関する資料の収集に力を入れています。しかし、このような地域資料の多くは、自費出版や非売品で手に入りやすく、収集には苦心しています。本を出版したという新聞記事を読んで、直接電話で問い合わせたり、チラシを配布し広報する等の収集活動を行っているところですので、資料の出版に関する情報をお持ちでしたら、ぜひお知らせください。また、ご寄贈いただければ幸いです。山梨県にしかない貴重な資料をご活用していただきたいのはもちろんのこと、それを後世に引継ぎ残していくことにもご協力ください。

(資料担当 藤澤友子 調査サービス担当 小林幸代)

本を出版された方へ

県立図書館に ご寄贈下さい！

…図書館からのお願い…

自分史、俳句や短歌集、雑筆、旅行記、体験記、小説、絵本
郷土の歴史研究、仲間をつけた文集、などなど…
思いがけず作った本で、身内や友人に譲りてもらうだけ
ではもったいないと思いませんか？

本を出版したら、ぜひ県立図書館へご寄贈ください！
県民のみならず、手に取って、読んでいただくことができます。

図書館が大切に保存し、県民のみならず提供させていただきます。
未来の読者に、ご自身の本を残されてみてはいかがでしょうか？

山梨県立図書館では、地域資料として
内容が、山梨県に関するものは3冊
(保存用・複製用・貸出用)
それ以外のものは2冊まで
(保存用・貸出用)
ご寄贈をお願いしております。

●お問い合わせはこちらまで●

〒400-0031 甲府市丸の内2丁目33-1
山梨県立図書館 資料情報課 資料情報係
電話 055-226-2586 FAX 055-226-2528
<http://www.library.yamanashi.jp>

お気軽に
お問い合わせ
ください！

平成18年度第4回資料紹介展示

「山本勘助 ー彼の生きた時代に思いをはせてー」

開催期間 平成19年1月26日（金）～3月25日（日）

「山本勘助」と聞いてどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。戦国時代を代表する名軍師？ 武田二十四将の一人？ それとも実在しない想像上の人物？ そして、彼が活躍したとされる時代に、日本や世界はどのような動きを見せていたのでしょうか。

今年度第4回目の資料紹介展示は「山本勘助 ー彼の生きた時代に思いをはせてー」と題して、1月26日から開催しています。この展示では、テーマを決定する企画の段階から資料選び、ちらし・目録の作成、資料の配置にいたるまで、当館で活動するボランティアの皆様が中心となって準備を行いました。



展示資料を選ぶボランティアの皆さん

山本勘助に関する資料を中心に、彼が生きた時代の日本と世界の様子、山本勘助の代表的なイメージである「軍師」について、そして現代に受け継がれる「風林火山」について、という構成で当館の所蔵資料を展示しています。



展示資料の一部

残念ながら今回の展示では紹介しきれなかった資料もたくさんあります。この展示を通して山本勘助の姿と彼の生きた時代の様子を感じていただくとともに、県立図書館ボランティアの皆さんによる工夫の成果にも注目していただければと思っています。
（調査サービス担当 島影尚代）

◆ボランティア活動から◆

「ボランティアを通じて」

昨年の春、夫の転勤に伴い甲府に引っ越ししてきました。自分のために何か時間を使いたいと漠然と考えていたところにボランティア募集を知り、好きな本にふれていられるという思いと子どもの頃の図書館司書になりたかった夢を思い出し、すぐに申し込みをしました。

書架の整理をしながら、好きな本が目にとまるとつい手に取ってしまいます。そんな時、ここはみるみる宝の山へと変身するのです。

子供の頃に読んだ本を見つけると懐かしくなります。「赤いろうそくと人魚」は、暗く荒れ狂った海が浮かんで、こわく悲しい思いを感じたことを思い出し、娘に話すと作品に興味を示し、早速読んでみたいと話しています。ロシア民話の「大きなかぶ」という話は、「戦争と平和」「アンナ・カレリーナ」のトルストイの作品だと、皆さんご存じでしたか。

記憶の中の本に再会したり、新しい発見があったり、充実した週一回のボランティアtimeです。

（ボランティア 勝野康江）

◆最近出会った本◆

『学生諸君！』

漱石・賢治・太宰・陽水ほか著（光文社）

人生論の類はどれも苦手で、敬して遠ざける態度が身についてしまっているのですが、本書は、収録された人物や内容がユニークで思わず手にしてしまいました。明治以降の人生の先達32人による若い世代へのメッセージを、詩、講演、ライナーノーツと多彩な原典から集め、あまり取り上げられたことのない文章も収められた異色の構成となっています。

人生半ばを過ぎて、あらためて「人生如何に生きべきか」と突きつけられ、来し方を振り返ると「小人之過也必文」（ワカッチャイルケドヤメラレナイ？）と、自分に嫌気がさしてしまいます。そんな「大人」にもぜひ読んでほしい一書です。この文章ともっと早く出会いたかったなどは今更の感傷ですが、私はこの本でそんな思いを抱かせる言葉にたくさん出会うことができました。

（企画振興担当 千野国弘）

メールでこんにちは

こんにちは。富士河口湖町生涯学習館開館から7ヶ月、来館される方々の反応はいかがですか。開館当初の7~8月には夏休みもあり、利用者数はかなり多かったようです。私も巡回時に広々とした館内を拝見し、ぜひ利用したいと思いました。貴館で導入したICチップは乗車券や携帯電話をはじめ様々な分野で使用され、広がってきています。資料管理の効率化やサービス向上に期待が持てるので、ゆくゆくは当館にも導入できればと考えています。

(山梨県立図書館 情報システム担当 堀内ゆき江)



メールありがとうございます。昨年7月に新館オープンし、あっという間に半年が過ぎました。新館は圧迫感のないやすらぎのある大空間となり、利用者の皆様からは「木の香りがする」「居心地が良い」と評判が良くうれしいかぎりです。

堀内さんのご質問ですが、利用者数は6ヶ月間で約5万人となり、お蔭様で前年比約2.3倍となりました。入館者の延べ人数は9万人を超えました。

また、「ICタグ」の導入により、利用者用「自動貸出機」を2台設置できたので、貸出が集中しても効率よく処理が進んでいます。全体の98%はこの自動貸出機を使い、利用者ご自身が貸出手続きを行います。出入り口の「ICゲート」では、盗難防止など資料管理面でも大きな効果を発揮しています。

蔵書点検はこれからですが、どれだけ作業効率が図れるのが楽しみです。

(富士河口湖町生涯学習館 五味和代)

図書館日記

図書館に勤務する以前の、私の図書館に対するイメージは、「本を借してもらうところ、学習室を利用するところ」というものでした。しかし図書館に勤務してすぐに、そんなイメージとは別の図書館の姿に気づかされました。

皆さんは、調べたい事があったり、確認したいことがあったとき、どうしているのでしょうか？ インターネットで検索しますか？ それも一つの方法ですが、図書館も身近で親切な情報検索サイトとしてご利用いただけます。「検索結果—該当なし」なんてコンピュータのように検索したとたん冷たく返答することはありません。一度お試しあれ、ご希望に添う情報が得られるかどうかはともかく、決して失望することはないとお勧めします。ぜひ皆さんも、「図書館活用名人」への第一歩を踏み出してはいかがでしょうか。

(総務課 村松 久)

◆◆◆ お知らせ ◆◆◆

■資料紹介展示

「山本勘助
—彼の生きた時代に思いをはせて—」
1月26日(金)~ 3月25日(日)

■蔵書点検に伴う休館

4月10日(火)~ 19日(木)

■資料紹介展示

「こどもにすすめたい本 2007」
4月20日(金)~ 5月30日(水)

編集後記

今回は、普段はなかなか見ることの出来ない書庫、また地域資料の収集から提供・保存の仕組みをご紹介いたしました。今後もさらに県立図書館を知っていただき、上手に活用していただけたら幸いです。

「読書山梨」へのご意見、ご感想等お待ちしております。

(企画振興担当 遠藤智美)

発行

山梨県立図書館

〒400-0031 甲府市丸の内二丁目33-1
TEL : 055-226-2586 FAX : 055-226-2528
URL : <http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>
E-mail : ken-tosho@lib.pref.yamanashi.jp